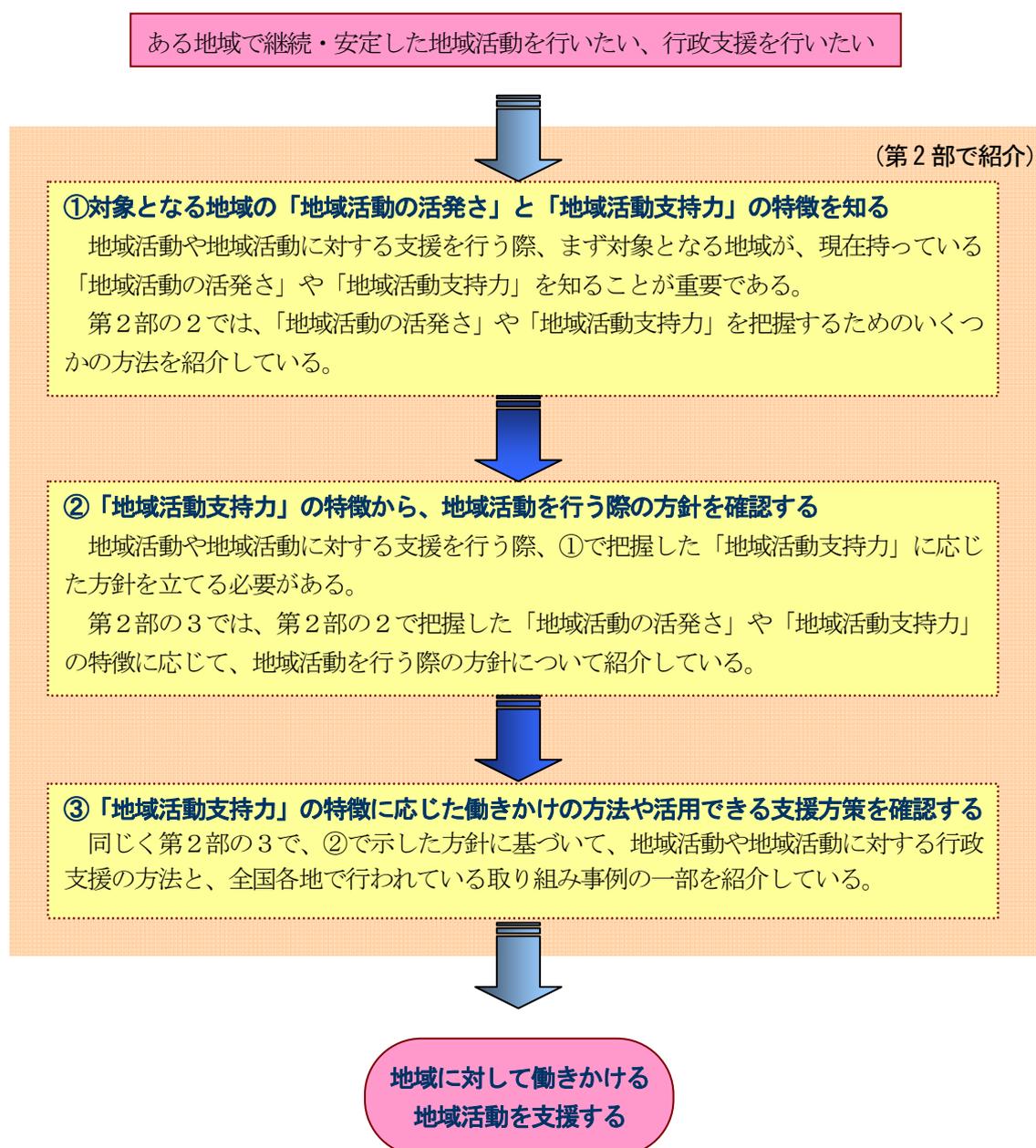


第2部 「地域活動支持力」を踏まえた地域活動や支援の方法編

1 「地域活動支持力」を踏まえて地域活動や支援を行う際の手順

第1部では、継続・安定した地域活動のためには、「地域活動を実施する主体やそれを支援する行政が、『地域活動支持力』の4つの特性について把握し、その特性を踏まえた活動や支援を行うこと」が重要であることを述べた。

そこで、第2部では、『地域活動支持力』を把握する方法と、『地域活動支持力』の特性に応じた地域への働きかけの方法について紹介する。



2 「地域活動の活発さ」および「地域活動支持力」の特徴を知る

ここでは、地域活動を実施する活動主体やそれを支援する行政が、「地域活動の活発さ」や「地域活動支持力」を把握するためのいくつかの方法を紹介している。

なお、本資料中において、分析の基本単位である「地域」の大きさは、「地域活動を行う際に、ある程度まとまった活動が可能な範囲」であり、概ね自治会単位程度を想定している。しかし、自治会の大きさは全国各地で様々であり、また行おうとする地域活動によっても「地域」の単位は多少異なってくることから、「町」「地区」など、その地域の特徴や行おうとする地域活動によって適宜設定する必要がある。

(1) 地域活動の活発さの捉え方

対象となる地域の住民にアンケート調査を行い、地縁活動（自治会活動）や非地縁活動（NPO活動）がどれほど活発に実施されているかを把握する。手順は以下のとおりである。

地域活動に関する独自の調査結果が存在する場合などは、既存の資料を活用して想定する。

【地域活動の活発さの捉え方の手順（例）】

①対象となる地域の住民に自治会活動と NPO 活動への参加状況を問うアンケート調査を実施する。

Q. 地域活動への参加頻度についてお答えください					
	所属しておりほぼ毎回参加する	所属しており時々参加する	所属しているがあまり参加しない	所属していないが参加してみたい	所属していないし参加してみたいとも思わない
自治会（町内会）活動	1	2	3	4	5
NPO 活動	1	2	3	4	5

※上記以外に影響力の大きな地域活動が行われている場合には、そういった活動も考慮する必要がある。

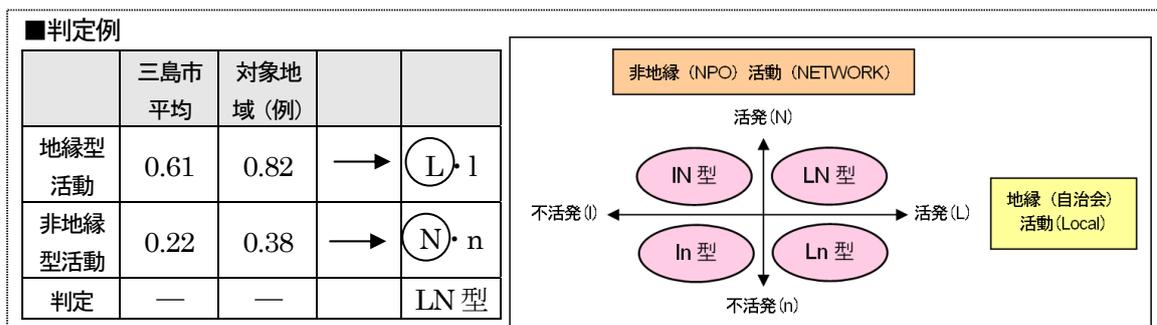
②アンケート調査によって自治会活動と NPO 活動への参加状況がわかったら「地縁活動の活発さ」と「非地縁活動の活発さ」の得点を算出する。

- i) 自治会活動・NPO 活動それぞれについて、選択肢ごとに回答数を集計する。
- ii) 自治会活動・NPO 活動それぞれについて各選択肢に重み付け（0～1）をして足し合わせ、対象となる地域の「自治会＝地縁活動の活発さ」と「NPO＝非地縁活動の活発さ」を算出する。

■「地域活動の活発さ」の算出方法（自治会活動、NPO 活動各々について算出する）

$$\begin{aligned} \text{「地域活動の活発さ」} = & (1.00 \times \text{「所属しており、ほぼ毎回参加する」の回答数} \\ & + 0.75 \times \text{「所属しており、時々参加する」の回答数} \\ & + 0.50 \times \text{「所属しているが、あまり参加しない」の回答数} \\ & + 0.25 \times \text{「所属していないが参加してみたい」の回答数} \\ & + 0.00 \times \text{「所属していないし、参加してみたいとも思わない」の回答数}) \\ & \div \text{全回答数} \end{aligned}$$

③地縁活動、非地縁活動の活発さそれぞれについて、標準的な値（ここでは、静岡県三島市の住民 4000 人を対象としたアンケート調査により算定された平均値を標準的な値としている。）と照らし合わせて、対象となる地域がどの型に分類されるかを確認する。



(2) 地域活動支持力支持力の捉え方

地域活動支持力とは「地域住民が持つ地域活動を生み出し、受け入れて支えるような、地域住民の持つ意識や行動面での特性」であり、下記の4つの特性で言い表されるものである（再掲）。

◆「地域活動支持力」の4つの特性◆

「地域内における行動規範」:

地域はこうあるべき、地域ではこう行動すべき、やるべきことはきちんとやるという意識や行動

「地域内での信頼」: 地域に対する信頼感、安心感

「地域に対する愛着」: 地域に対する好意的で主体的な意識や行動

「地域内外での人との付き合い」: 近隣、町外など地域を限らない人との付き合い

ここでは、対象となる地域の「地域活動支持力」の4つの特性（「地域内における行動規範」「地域内での信頼」「地域に対する愛着」「地域内外での人との付き合い」）を捉える方法を紹介する。捉え方としては以下の方法が考えられる。各方法については次頁以降にそれぞれ掲載している。

◇地域住民へのアンケート調査を実施することによって把握する。

◇アンケート調査が実施できない場合は、いくつかの住民の個人属性に関わる既存の統計データなどから推察する。

【「地域活動活動支持力」をアンケート調査で捉える手順（例）】

- ①「地域活動支持力」について、4つの特性ごとに以下のように調査項目を設定して、アンケート調査を行う。なお、各調査項目の下のカッコ内には選択肢の例を掲載している。

「地域内における行動規範」に関する調査項目

- ・あなたは家の近くで人に出会ったら挨拶をしますか。
(知らない人でも挨拶をする・知っている人なら挨拶をする・親しい人でない限り挨拶はしない・わからない)
- ・あなたの住んでいる地域では、改善すべき課題（皆が悩んでいることや困っていることなど）があると思いますか。
(明らかに改善すべき課題がある・なんとなく課題があると思う・課題はほとんどない・わからない)
- ・あなたは家の近くで車や自転車を運転したり道を歩いたりするときに、交通マナーに気を使っていますか。
(家の近くでは特に気を配る・どこでも同じくらい気を配る・規則は守る程度・わからない)
- ・あなたは地域の回覧板にきちんと目を通して次に回していますか。
(きちんと目を通し出来るだけ早く回す・きちんと目を通すか、早く回すかのどちらかである・きちんと目を通さないし回すのは遅い・回覧板は回ってこない)

「地域内での信頼」に関する調査項目

- ・あなたの住んでいる地域で災害があったとき、困っていれば近所の人から助けをしてくれると思いますか。
(近所の誰かが助けをくれると思う・消防団の人などが助けをくれると思う・助けは期待できない・わからない)
- ・あなたの住んでいる地域の治安についてどう思いますか。
(良い・どちらかと言うと良い・どちらかと言うと悪い・悪い・わからない)
- ・あなたは三島市を信頼できると思いますか。
(大いに信頼できる・どちらかという信頼できる・どちらかという信頼できない・全く信頼できない・わからない)

「地域に対する愛着」に関する調査項目

- ・あなたは今住んでいる地域にこれからも住み続けたいと思いますか。
(住み続けたい・たぶん住み続けるだろう・どちらでもよい又はわからない・他に移りたい)
- ・あなたは近所の自然（水辺や樹林、草地など）にふれあえる場所によく行きますか。
(よく行き、掃除や手入れを手伝う・よく行く・自然にふれあえる場所はあるが、あまり行かない・自然にふれあえる場所が無い・わからない)
- ・あなたは地方選挙の投票に行きますか。
(必ず行く・たいてい行く・たまに行く・行かない)

「地域内外での人との付き合い」に関する調査項目

- ・あなたは隣近所の人と日頃からよく付き合っていますか。
(付き合いは深い・日常的な立ち話程度で普通に付き合う・挨拶程度で付き合いは浅い・付き合いはない)
- ・あなたは町外の人とよく付き合っていますか。
(町外に親しい人が多く付き合いも深い・町外に親しい人は多いが付き合いは浅い・多くはないが町外に親しい人はいる・町外に親しい人はほとんどいない)
- ・あなたは近所の道路や公園、水辺などにごみが落ちていたら拾いますか。
(必ず拾う・できるだけ拾うようにしている・拾わないことが多い・わからない)

※「町」の単位は地域によって異なることから、対象となる地域の単位によって適宜設定する。

なお、以下の説明では各調査項目について下表の略称を用いる。

調査項目	略称
あなたは家の近くで人に出会ったら挨拶をしますか。	挨拶の習慣
あなたの住んでいる地域では、改善すべき課題（皆が悩んでいることや困っていることなど）があると思いますか。	地域の課題
あなたは家の近くで車や自転車を運転したり道を歩いたりするときに、交通マナーに気を使っていますか。	交通マナー
あなたは地域の回覧板にきちんと目を通して次に回していますか。	回覧板
あなたの住んでいる地域で災害があったとき、困っていれば近所の人が助けしてくれると思いますか。	災害時助け合い
あなたの住んでいる地域の治安についてどう思いますか。	地域の治安
あなたは三島市を信頼できると思いますか。	行政の信頼
あなたは今住んでいる地域にこれからも住み続けたいと思いますか。	定住志向
近所の自然（水辺や樹林、草地など）にふれあえる場所によく行きますか。	身の回りの自然
あなたは地方選挙の投票に行きますか。	選挙投票
あなたは隣近所の人と日頃からよく付き合っていますか。	近隣付き合い
あなたは町外の人とよく付き合っていますか。	町外付き合い
あなたは近所の道路や公園、水辺などにごみが落ちていたら拾いますか。	地域のごみ

②アンケート調査で得られた結果について、各調査項目の大きさを算出する。

- i) 各調査項目の選択肢ごとに回答数を集計する。
- ii) 調査項目ごとに、選択肢に重み付け (0~1) をして足し合わせ、各調査項目の大きさを算出する。
(各選択肢の重み付けはたとえば以下のように行う。)

■例：「あなたは地方選挙の投票に行きますか。」の大きさ

$$= (1.00 \times \text{「必ず行く」の回答数} \\ + 0.67 \times \text{「たいてい行く」の回答数} \\ + 0.33 \times \text{「たまに行く」の回答数} \\ + 0.00 \times \text{「行かない」の回答数}) \div \text{全回答数}$$

③②で算出した各調査項目の大きさを標準化 (Zスコア化) する。

②で求めた各調査項目の大きさを、以下の式を用いて平均値が0、標準偏差が1の得点 (Zスコア) に変換する。

(※あるデータを平均値が0、標準偏差が1の得点に変換することを標準化 (Zスコア化) という。)

■標準化するための式

$$\text{各調査項目のZスコア} = (\text{②で求めた各調査項目の大きさ} - \text{三島平均値}) \div \text{三島標準偏差}$$

ここでは、人口規模が全国の中規模程度、居住形態なども全国水準と同程度の三島市での調査結果から得られた平均値・標準偏差を用いている。なお、三島市の平均値および標準偏差は以下のとおりである。

調査項目	三島平均値	三島標準偏差
挨拶の習慣	0.66	0.11
地域の課題	0.66	0.07
交通マナー	0.54	0.05
回覧板	0.83	0.08
災害時助け合い	0.66	0.08
地域の治安	0.56	0.07
行政の信頼	0.37	0.07
定住志向	0.74	0.10
身の回りの自然	0.30	0.09
選挙投票	0.86	0.07
近隣付き合い	0.62	0.06
町外付き合い	0.51	0.07
地域のごみ	0.42	0.06

④③で求めた各調査項目の Z スコアから、「地域活動支持力」の4つの特性それぞれの得点を以下の式で算出する。

■ 「地域活動支持力」の得点を算出する式

	行動規範	信頼	愛着	付き合い		③で算出した Z スコア
選挙投票	0.026	-0.025	0.188	0.040	×	a
定住志向	0.032	0.115	0.517	0.121		b
地域の課題	0.037	-0.057	0.030	0.108		c
身の回りの自然	0.001	0.026	0.203	-0.031		d
地域の治安	-0.040	0.181	0.033	-0.015		e
災害時助け合い	-0.106	0.485	0.004	-0.022		f
行政の信頼	-0.056	0.208	0.059	-0.073		g
地域のごみ	0.045	-0.038	0.061	0.160		h
挨拶の習慣	0.955	0.124	-0.210	-0.231		i
交通マナー	0.022	-0.039	0.070	0.043		j
回覧板	0.023	-0.017	-0.012	0.094		k
隣近付き合い	0.048	0.263	-0.204	0.559		l
町外付き合い	0.064	-0.056	0.023	0.242		m

例：
「地域内における行動規範」の得点 = $0.026 \times a + 0.032 \times b + 0.037 \times c + \dots + 0.064 \times m$

⑤④で求めた「地域活動支持力」のそれぞれの得点をレーダーチャートの形で描いて、対象となる地域の地域活動支持力の特徴を確認する。その際は、第1部の2(2)で示したような「地域活動支持力」の特徴も参考にする。

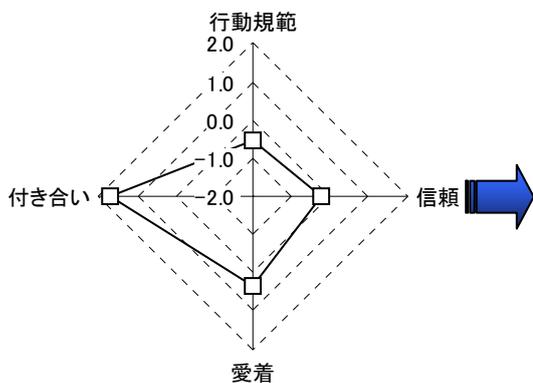
■例：ある地域 A における地域活動支持力の特徴

①ある地域 A における「地域活動支持力」の得点の算出結果は以下のとおりであった。

- 「地域内における行動規範」 = -0.52
- 「地域内での信頼」 = -0.22
- 「地域に対する愛着」 = 0.33
- 「地域内外での人との付き合い」 = 1.69

②「地域活動支持力」の得点をレーダーチャートの形で示して「地域活動支持力」の特徴を考察する。

ある地域 A の「地域活動支持力」レーダーチャート



ある地域 A の「地域活動支持力」の特徴：

- ・レーダーチャートは第1部2(2)のレーダーチャートと照らし合わせると、LN型と似ている。
- ・「地域内外での人との付き合い」が特に活発な地域である。



- ・「地域活動の活発さ」の類型に当てはめると、LN型に相当すると考えられる。
- ・つまり、現在すでに地域活動活発か、あるいはまだ活発ではなくてもそのポテンシャルを有している可能性がある。

(※なお、ここで取り上げた地域 A は、「地域活動の活発さ」に関するアンケート調査によると、自治会活動の得点が 0.82、NPO 活動の得点が 0.38 であり、地域活動がすでに活発な地域であった。)

(第1部2(2)「地域活動支持力」の特徴 より再掲)

◆地域分類別「地域活動支持力」の特徴◆

LN型(地縁活動・非地縁活動ともに活発な地域):

「地域活動支持力」は全体的に大きく、とりわけ「地域内外の人との付き合い」が活発

Ln型(地縁活動が活発な地域):

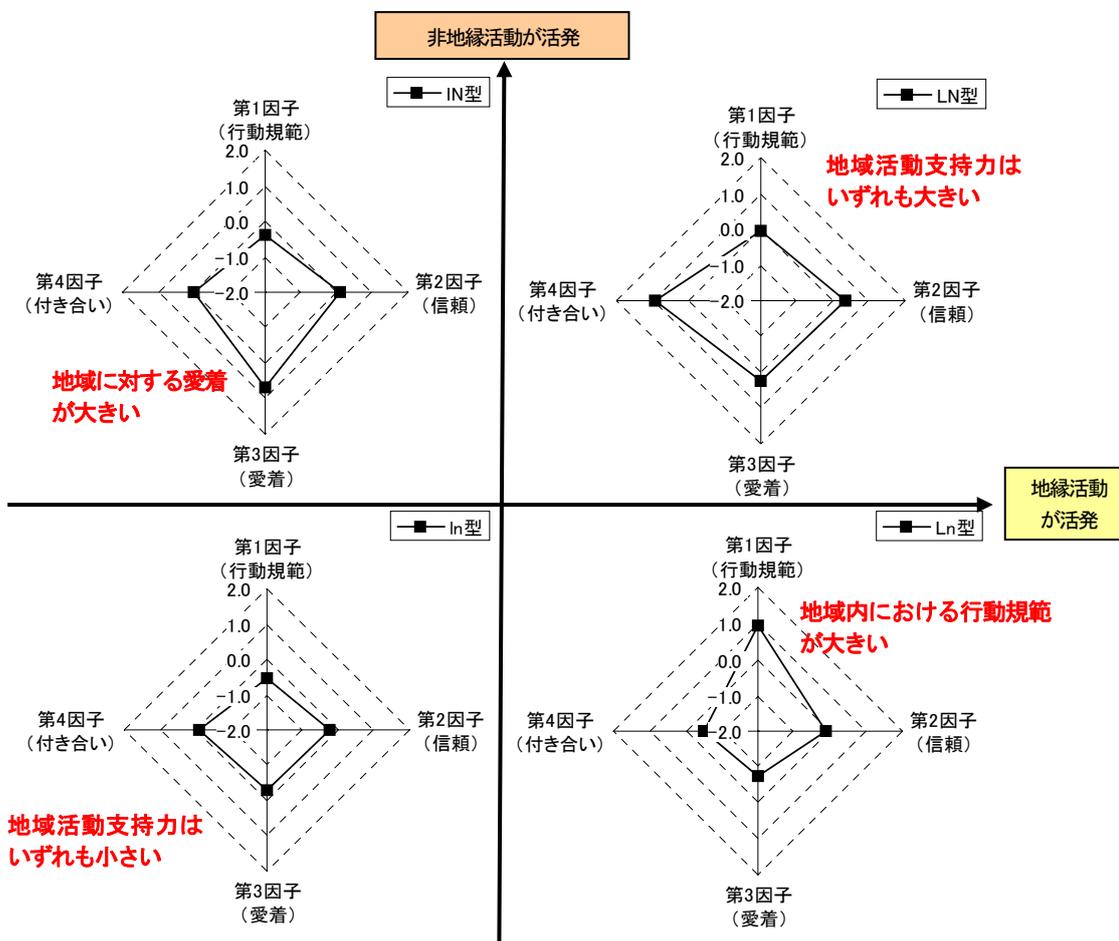
「地域内における行動規範」が他の地域と比較して一段と大きい

IN型(非地縁活動が活発な地域):

「地域に対する愛着」が他の地域と比較して大きい

In型(地縁活動・非地縁活動ともに活発でない地域):

「地域活動支持力」は全体的に小さい



【「地域活動活動支持力」を既存の統計データから推察する場合の手順（例）】

「地域活動支持力」と地域住民の「居住属性」「職業属性」「年齢・世帯人数属性」とは、以下のような相関関係が見られることがわかっている。そこで、ここでは、各種属性を国勢調査など既往の調査結果を用いて把握し、「地域活動支持力」の特徴を推察する方法を紹介する。

「地域内における行動規範」が大きい地域

- ・居住属性 : 戸建て・持ち家に住む、平均居住年数が短い、出身地が遠い
- ・職業属性 : 職場が遠い

「地域内での信頼」が大きい地域

- ・年齢・世帯属性 : 65歳以上の高齢者が多い

「地域に対する愛着」が大きい地域

- ・年齢・世帯属性 : 65歳以上の高齢者が多い、平均世帯人数が少ない
- ・居住属性 : 平均居住年数が長い、出身地が近い
- ・職業属性 : 職場が近い、民間企業に勤める住民が少ない

「地域内外での人との付き合い」が活発な地域

- ・居住属性 : 平均居住年数が長い、出身地が近い

①国勢調査結果（特に「小地域集計」の結果）、あるいは県や市が独自にとりまとめや調査を行った統計調査結果（「〇〇市統計書」やその他、県や市の統計資料室に保管されているような各種データ）などを活用して各種属性を把握する。（下記には参考として国勢調査の調査項目を挙げている）

年齢・世帯属性 : 年齢、世帯人員

居住属性 : 現在の居住年数、住宅の所有の関係（持ち家、借り家など）、住宅の建て方（戸建て、共同住宅など）

職業属性 : 産業（農業、製造業、飲食店など）、社会経済分類（農林漁業者、商店主、事務職など）、従業地

②①で把握した個人属性の特徴から、対象となる地域が持っている「地域活動支持力」の特徴を推察する。

（例えば、戸建て持ち家に住み、平均居住年数が短いような住民が多い地域では、「地域内における行動規範」が大きいと考えられる、など。）

3 「地域活動支持力」を踏まえた地域活動や支援の方法

地域活動団体が地域活動を行ったり、行政が活動を支援したりする際には、2で把握した「地域活動支持力」の特徴を踏まえて地域への働きかけを行う必要がある。ここでは、「地域活動支持力」の特徴に応じた地域への働きかけや支援の方針、方法、参考事例について紹介している。

なお、本項の参考事例では、既存の地域活動事例からその一部分のみを紹介しており、各事例の全体概要は第3部「参考事例」で紹介している。「参考事例」中に示されている事例番号は、第3部「参考事例」の事例番号と一致している。

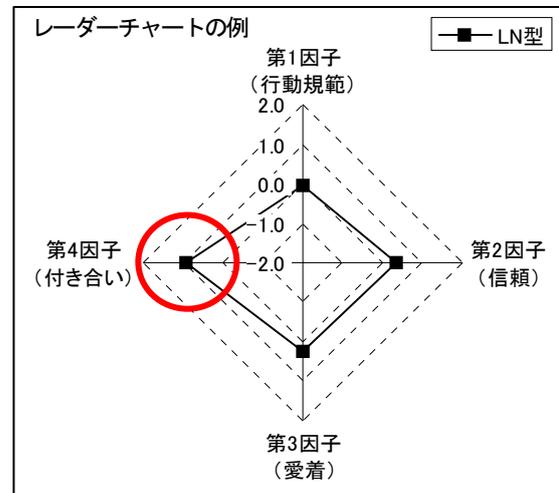
(1) 全ての地域活動支持力が大きい地域、「地域内外での人との付き合い」が活発な地域

①この地域の特徴

この地域は、地域活動支持力の4つの特性がいずれも比較的大きく、特に「地域内外での人との付き合い」が活発な地域である。

こういった特徴を持つ地域は、地域活動の活発さによる分類では「LN型」に分類される。

つまり、現在すでに自治会のような地縁活動、NPOのような非地縁活動がともに活発であるか、あるいは、現在は地域活動が活発ではない場合でも、地域活動が活発に行われうるポテンシャルを既に有している可能性がある地域である。



②地域への働きかけや地域活動への支援の方針

この地域では、すでに継続・安定した地域活動が行われている可能性がある。

そうでない場合は、地域における「地域内外での人との付き合い」が活発であることを生かした働きかけや支援を行うことが有効であると考えられる。

③地域への働きかけや支援の方法

- ・活発な地域活動が見られる可能性があるため、まずは既存の地域活動の実態を十分に把握する。
- ・「地域内外での人との付き合い」を生かす：広く人的ネットワークを持っているような地域住民を対象として、地域活動を喚起するような場を設けることからアプローチを開始する。

④参考事例

●地域活動を喚起するような場を設ける

- ・静岡県三島市では、緑地整備の計画見直しを行う際に、地域をよく知る NPO 団体が中心となって自然観察会やワークショップを数多く行った。この結果、より多くの住民が関心を持つようになると同時に、維持管理を地域住民自らが行っていこうという活動にも繋がった。【事例6】
- ・横浜市都筑区では、農業用水路の水辺再生整備を行う際に、整備イメージについて地元自治会役員と意見交換を行い、これを一部反映した整備を行った。この意見交換に参加していた住民が、自らの人的ネットワークを用いて水路の維持管理活動を行うようになった。【事例8】

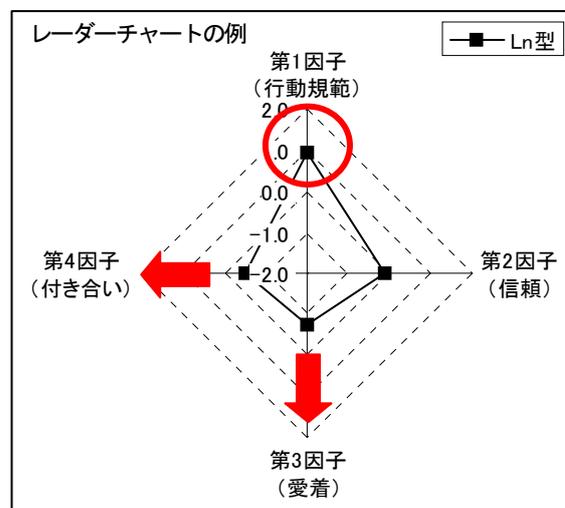
(2) 「地域内における行動規範」が大きい地域

①この地域の特徴

この地域は、「地域内における行動規範」が大きい。地域はこうあるべきといった考えを持ち、地域のルールは守るといった意識を持つ住民が多い地域である。

こういった特徴を持つ地域は、地域活動の活発さによる分類では「Ln型」に分類される。

つまり、現在すでに自治会のような地縁活動が活発であるか、あるいは、現在は活発ではない場合でも、地縁活動が活発に行われうるポテンシャルを既に有している可能性がある地域である。



②地域への働きかけや地域活動への支援の方針

この地域では、すでに地縁活動が機能的に行われている可能性が高く、その場合には機能している自治会に働きかけることが有効であると考えられる。

そうでない場合には、「地域内における行動規範」が大きいことを生かすような、あるいは「地域に対する愛着」「地域内外での人との付き合い」を育てるような働きかけが有効であると考えられる。

③地域への働きかけや支援の方法

- ・既存の自治会組織を通じて地域住民に働きかけを行う。
- ・「地域内における行動規範」を生かす：地域住民による規範的な活動を支援する。
- ・「地域に対する愛着」を育てる：地域外からの働きかけを行う。

行政や民間の広報誌や、地元新聞・テレビ、専門家の知見や観光客などを活用して、外部からの目を増やすことで、地域や地域活動を誇りに思う気持ちを高める。

- ・「地域内外での人との付き合い」を活発にする：地域内外で他の住民と知り合う機会を設ける。

イベントやワークショップ、意見交換会、各主体の連携会議の開催、外部と交流できる機会の情報提供などを行う。

④参考事例

●地域住民による規範的な活動を支援する

- ・横浜市都筑区では、住民の熱心で主体的な水路の維持管理活動に対して、「水辺愛護会制度」による助成を行っている。更に、自治体 HP や広報を活用して市民に幅広く地域活動を紹介している。【事例 8】

●地域外からの働きかけを行う

美化活動への制度面・広報による支援【事例 8】

- ・横浜市都筑区では、上述のとおり、住民の熱心で主体的な水路の維持管理活動に対して「水辺愛護会制度」による助成を行っており、自治体 HP や広報を活用した活動の紹介も行っている。
- ・水路や水路での地域活動は地元のケーブルテレビでも取り上げられるようになり、より多くの住民が水路や地域活動、地域全体に対して愛着を持つようになった。

観光と組み合わせた活動【事例 6】

- ・静岡県三島市では、NPO 団体が首都圏の人を三島市に呼び、「水辺ゴミ拾いツアー」と地域交流を行ったところ、「美しい川にどうしてゴミを捨てるのか」「素晴らしい水辺が残っている」といった外部からの意見が聞かれ、地域住民が地域の水辺に誇りを持ち、あらためて問題意識を持つようになった。
- ・現在、地域活動により良好な水辺環境が維持されるようになり、行政による「街中がせせらぎ」事業によっても水辺が整備されるようになり、観光客や視察客が増加した。これにより、地域住民が地域の価値を更に認識して、愛着を持ち、水辺を綺麗に保とうという意識も持続して持っている。

研究成果を活用した活動【事例 5】

- ・郡上八幡では、郡上八幡の水利用システムに関する研究論文が発表されたことを契機として、「水」や「景観」を重点とした総合計画を策定した。また、行政職員がこの計画を地域住民に説明することで、地域の水に対する関心や愛着が高まった。
- ・研究論文、専門家による講演などを通じて、地域の水環境の価値を再認識して誇りを持つようになった地域住民が、水環境保全のための活動を行うようになった。

●地域内外で他の住民と知り合う機会を設ける

イベントやワークショップの開催

- ・矢作川水系森林ボランティア協議会では、「楽しくて少しかだけ役に立つ」をキャッチコピーに掲げて「森の健康診断」を行っている。イベントには多くの一般市民と不在山主が参加しており、参加者同士や山村との交流のきっかけづくりの場となっている。【事例 1】
- ・静岡県三島市では、緑地整備の計画見直しを行う際に、地域をよく知る NPO 団体が中心となって自然観察会やワークショップを数多く行った。こういった活動が地域の住民と交流する機会となった。【事例 6】
- ・徳島市における新町川を守る会では、河川清掃・緑化、リバークルージングから、森林での植樹、数多くのイベント（祭り、コンサート、寒中水泳）などを開催している。こうした多様な活動の実施によって、地域住民が興味や出来ることに応じて活動に参加・協力することができるため、より多くの地域住民が活動に参加して交流が行われている。【事例 7】

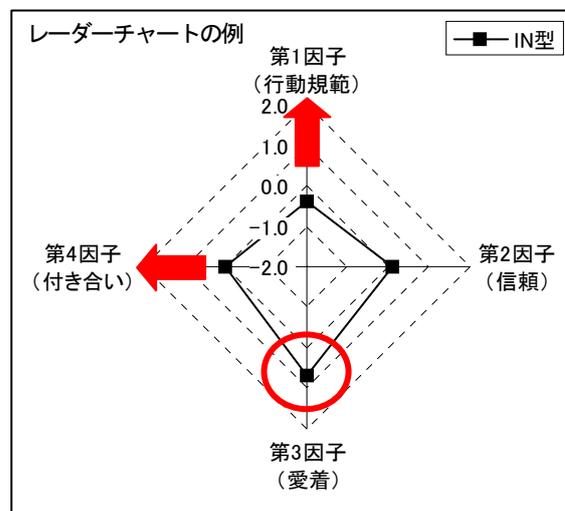
(3) 「地域に対する愛着」が大きな地域

①この地域の特徴

この地域は、「地域に対する愛着」が大きく、地域の自然とよくふれあう、定住志向が高いなど、地域に対して主体的で好意的な意識を持つ住民が多い地域である。

こういった特徴を持つ地域は、地域活動の活発さによる分類では、「IN型」に分類される。

つまり、現在すでにNPO活動のような非地縁活動が活発であるか、あるいは、現在は活発ではない場合でも、非地縁活動が活発に行われうるポテンシャルを既に有している可能性がある地域である。



②地域への働きかけや地域活動への支援の方針

この地域では、すでに非地縁活動が機能的に行われている可能性が高く、その場合には地域活動の実態を把握し、これらの弱点を補強するような地域活動や支援を行うことが有効であると考えられる。

そうでない場合には、「地域に対する愛着」が大きいことを生かすような、あるいは「地域内における行動規範」「地域内外での人との付き合い」を育てるような働きかけや支援が有効であると考えられる。

③地域への働きかけや支援の方法

- ・既存の団体との協働を模索する。
- ・「地域に対する愛着」を生かす：地域住民の愛着を刺激して地域活動のきっかけをつくる。
- ・「地域内における行動規範」を育てる：
地道で粘り強い維持管理活動を行う、あるいはそういった活動に対して支援を行うことで、地域全体の行動規範を育てる。
広報誌や地元新聞・テレビを活用して外部からの目を増やすことで、地域に対する監視の目を増やす。
- ・「地域内外での人との付き合い」を活発にする：地域内外で他の住民と知り合う機会を提供する。
イベントやワークショップ、意見交換会、各主体の連携会議の開催、外部と交流できる機会の情報提供などを行う。

④参考事例

●地域住民の愛着を刺激して地域活動のきっかけをつくる

地域のシンボルとなるような水辺の整備、水辺に着目するきっかけ作りなど

- ・徳島市では、親水公園の整備の完成イベントをきっかけに、河川のゴミに強い危機意識を持った「地域に対する愛着」の高い地元商店街の有志によって、河川の清掃が行われるようになった。【事例7】
- ・横浜市都筑区では、農業用水路に対して親水整備が行われたにもかかわらず、水路へのゴミの投棄が行われていることに強い危機意識を持った「地域に対する愛着」の高い地域住民が中心となって、ゴミ拾いや草刈が行われるようになった。【事例8】

●地道で粘り強い維持管理活動、活動に対する支援

- ・静岡県三島市では、NPO 団体が中心となり、川のゴミを拾うという地道な作業を3年間行い続けることで、川のゴミがようやくなくなり、たとえゴミが捨てられてもすぐに拾われるようになった。【事例6】
- ・徳島市では、NPO 団体による川のごみ拾いを行い続けた。7～8年した頃から川がきれいに保たれるようになった。また、徐々に近隣住民が植栽の水やりのために水道を提供してくれるなどの協力も得られるようになった。【事例7】
- ・横浜市都筑区では、水路のゴミを拾いや草刈りを月1回の定例会およびメンバーが気付いた際に随時行っている。頻繁に誰かが水路で清掃・草刈作業を行ってきれいな状態を保つことで、地域住民がゴミを捨てなくなり、自ら拾う人も出てきた。こういった活動に対して、行政も水辺愛護会制度によりわずかではあるが資金や機材の支援している。【事例8】

●外部からの目を増やす活動、支援

- ・静岡県三島市では、地域活動により良好な水辺環境が維持され、行政による「街中がせせらぎ」事業によっても水辺が整備されるようになり、観光客や視察客が増加した。これにより、地域外からの水辺や地域に対する目が増加し、地域住民が水辺を綺麗に保とうという意識に繋がっている。【事例6】
- ・徳島市では、中心市街地活性化イメージアップ戦略として「ひょうたん島構想」が策定され、地元有志の意見で「周遊船の運航」が位置づけられた。地域活動団体が市からの一部委託を受けて、新町川で周遊船を運航し、観光客を呼び込むことで、川に多くの住民や観光客の目が集まるようになった。【事例7】
- ・横浜市都筑区では、地域住民による水路の維持管理活動について、自治体HPや広報を活用して市民に幅広く紹介しており、地元のケーブルテレビでも取り上げられている。これにより、多くの住民が水路や地域活動に注目し、住民による地域にゴミを捨てないといった規範的な行動も促進された。【事例8】

●地域内外で他の住民と知り合う機会を設ける

イベントやワークショップの開催

- ・矢作川水系森林ボランティア協議会では、「楽しくて少しだけ役に立つ」をキャッチコピーに掲げて「森の健康診断」を行っている。イベント開催の仕組みは各地の森林で様々ではあるが、地元自治体の全面的なバックアップでイベントが開催される地域もあるなど、協働した取り組みも見られる。イベントには多くの一般市民と不在山主が参加しており、参加者同士や山村との交流のきっかけ、一般市民や不在山主が森の問題に目を向けるきっかけづくりの場となっている。【事例1】
- ・静岡県三島市では、緑地整備の計画見直しを行う際に、地域をよく知る NPO 団体が中心となって自然観察会やワークショップを数多く行った。こういった活動が地域の住民と交流する機会となった。【事例6】
- ・徳島市における新町川を守る会では、河川清掃、リバークルージング事業、河岸の緑化や維持から、森林での植樹、祭り、クリスマスイベント、コンサート、寒中水泳など、数多くのイベントを開催している。多くの地域住民が自らの興味や出来ることに応じて、いずれかの活動に参加・協力できるように多くの種類の活動を実施しているのである。こうした多様な活動の実施によって、より多くの地域住民が活動に参加して交流が行われている。【事例7】

地域活動の連携に対する支援

- ・榎野川には、アサリの不漁が大きなきっかけとなって組織された、漁協、森林組合、農協、山口市による榎野川流域活性化交流会がある。年1回の会合では、山口県も加わった形で意見交換が行われる。
- ・流域活性化交流会での情報交換や企画の話し合いによって、年間を通じた山から海までを対象とした活動が行われている。こういった各主体の付き合いが、流域全体に対する理解や愛着、新たな活動の実施に繋がっている。【事例3】

多くの主体の連携体勢の整備（住民、大学、企業、行政等による活動運営）

- ・西条・山と水の環境機構は、西条酒造協会が母体となった活動団体である。活動発足当初から活動の関係者（企業、大学、行政など）が加わった運営体制を整備したことによって、合意形成が図られやすく、活動の実効性が高まっている。また、より多角的な活動に対する議論も行われている。【事例2】
- ・墨田区向島地域では、一言会を始め多くのまちづくり活動が行われており、多くの地域活動団体や研究者、行政が一体となって地域について考えるきっかけとして向島博覧会が開催され、NPO 法人向島学会が設立された。【事例4】

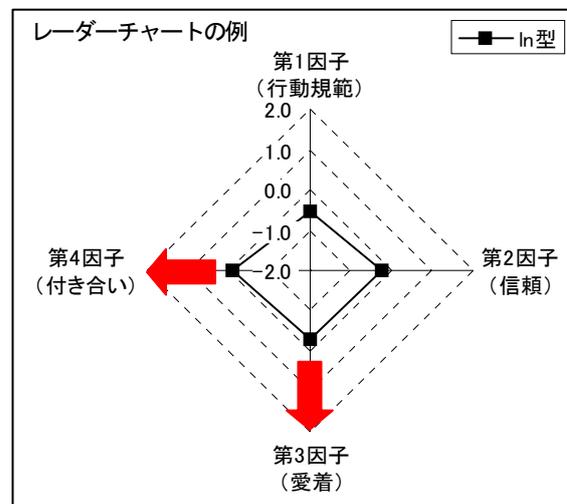
(4) 全ての「地域活動支持力」が小さい地域

①この地域の特徴

この地域は、全体的に「地域活動支持力」が小さな地域である。

こういった特徴を持つ地域は、地域活動の活発さによる分類では、「In型」に分類される。

つまり、地域活動が活発でない可能性が高く、また、現時点では地域活動が活発に行われうる状況にもない可能性が高い。



②地域への働きかけや地域活動への支援の方針

この地域では、「地域活動支持力」を育てていくことで、まずは地域活動が行われるような地域の基盤を作る必要がある。

まずは、「地域に対する愛着」や「地域内外での人との付き合い」を育てるような働きかけや支援を行うことが有効であると考えられる。「地域内における行動規範」や「地域に対する信頼」はそうした働きかけや支援を通じて少しずつ地域活動が行われる中で、徐々に醸成されるものであると考えられる。

③地域への働きかけや支援の方法

- ・「地域に対する愛着」を育てる、「地域内外での人との付き合い」を活発にする：

地域住民が集まって楽しみながら地域の資源や課題を知るきっかけとなる活動（参加型イベント、ワークショップ、現地観察会、講演会など）を行う。イベントやワークショップの企画・開催・運営は、ノウハウを持つ専門家やNPO団体などから、企画や開催に際して支援を受けることが望ましい。地域内に適任の専門家や団体を見つけることが困難である場合も想定されることから、近隣地域に目を広げて適任の専門家や団体を探す、あるいは類似の地域で多くの実績を有する専門家や団体に支援を仰ぐことも考えられる。

④参考事例

ここでは、地域における愛着や地域内外での人との付き合いを高めるような地域活動をたくさん行っている事例について紹介する。

●参加体験型森林調査のイベントの開催【事例1】

・矢作川水系森林ボランティア協議会では、「楽しくて少しだけ役に立つ」をキャッチコピーに掲げて「森の健康診断」を行っている。イベント開催の仕組みは各地の森林で様々ではあるが、地元自治体の全面的なバックアップでイベントが開催される地域もあるなど、協働した取り組みも見られる。イベントには多くの一般市民と不在山主が参加しており、参加者同士や山村との交流のきっかけ、一般市民や不在山主が森の問題に目を向けるきっかけづくりの場となっている。

●専門家や地域のNPOによるワークショップや自然観察会の開催【事例6】

・グラウンドワーク三島では、たとえば緑地整備計画の策定に向けて、地域の専門家による自然観察会や体験イベント、ワークショップを数多く行った。こういった活動が、地域住民が緑地の良さを知り、緑地に興味を持つきっかけとなった。また、地域の住民と交流する機会となったりした。また、現在では地域住民によって構成される愛護会が緑地の維持管理を行っている。

●多種多様なイベントや地域活動の実施【事例7】

・新町川を守る会では、河川清掃、リバークルージング事業、河岸の緑化や維持から、森林での植樹、祭り、クリスマスイベント、コンサート、寒中水泳など、数多くのイベントを開催している。多くの地域住民が自らの興味や出来ることに応じて、いずれかの活動に参加・協力できるように多くの種類の活動を実施しているのである。こうした多様な活動の実施によって、より多くの地域住民が地域に目を向けるきっかけとなるようにしている。